

## NICU 看護師のやりがいとそれに影響する要因

西病棟 5 階 ○松田康子 大澤みゆき 森田真紀子  
小川外志江 古田ひろみ

Key word : NICU 看護師 やりがい

はじめに

NICU は新しい生命の誕生という喜ばしい場である一方、未熟性の為に死に直面する機会も多く、生命倫理的にジレンマを生むこともある。また、常に新しい医療技術からのチャレンジ、患児と家族間の問題、他職種との連携、看護内容の複雑さなどの要因で、NICU 看護師はバーンアウトしやすいと言われている<sup>1)</sup>。当院看護師でも、児の生命倫理面で医師と看護師間、または医師と家族間の意見の相違で悩んだり、受け持ち患児の突然の死で働く意欲が低下したことがあった。

NICU 看護師は専門性が高く、様々な技術を高いレベルで獲得することが重要で、経験が必要となる。野本らによると「自分が行った看護の結果が、仕事へのやりがいや意欲につながっていき、仕事を続けたいと思う気持ちになる<sup>2)</sup>」と言われている。やりがいを持つことが仕事の継続につながり、そのことが NICU 看護の質の維持・向上につながるのではないかと考えた。

そこで、私は「やりがい」に焦点を当て、スタッフがやりがいを持ち続けて働くためにはどういう時期にどういうサポートが必要かを探るための第一段階として、今回 NICU 看護師が何に「やりがい」を感じているのか、またそれに影響する要因を明らかにしようと考えた。

用語の定義：「やりがい」とは、その人にとって行うと価値があるもの。少し高いレベルの目標に向かって挑戦することで得られるもの。満足感が得られ喜びを感じられること。そして更に次の現実的な目標に向かおうとする気持ちである。

### I. 目的

NICU 看護師が何に「やりがい」を感じているのか、「やりがい」に影響する要因は何かを明らかにする。

### II. 研究方法

期間：平成 16 年 7 月～9 月

対象：NICU 看護師 10 名

調査及び分析方法：対象者に個別に半構成面接を 30 分程度行った。面接はやりがいの定義を示し、内容は現在 NICU の看護にやりがいを感じているか、それはどのようなことか、そのやりがいを感じるに至ったこれまでの経験や影響したものは何かを順に質問した。面接内容は逐語録を作成し、内容分析した。内容分析にあたり、質

的研究経験者からスーパーバイズを受けた。

倫理的配慮：対象者には書面で説明を行い、同意を得られた人に同意書を記載してもらい面接を行った。面接内容は同意を得て録音を行い、回答の拒否や面接の中止及び内容の削除をいつでも行える旨を伝えた。研究結果は本研究以外には使用せず、個人が特定されないよう処理し、個人の秘密は厳守することを伝えた。

### III. 結果

NICU 看護師 10 名の面接を行った。

#### 1. 対象の背景

看護師経験年数は 2～3 年目 3 名、4～7 年目 5 名、8 年目以上 2 名であり、NICU 経験年数は 1 年未満 1 名、1～3 年目が 6 名、4～7 年が 3 名、8 年以上が 1 名であった。

#### 2. NICU 看護師のやりがい

以後、NICU 看護師のやりがいに関するカテゴリーを【 】、サブカテゴリーを[ ]、コードを「 」で示す。

NICU 看護師のやりがいに関係する内容を分析した結果、【看護の対象との関わり】、【自分自身の成長・存在意義】、【NICU という環境】の 3 つのカテゴリーと 9 つのサブカテゴリーが抽出された (表 1)。

【看護の対象との関わり】は、【児の成長と関わり】、【親との信頼関係】、【親役割獲得過程への関わり】の 3 つのサブカテゴリーより抽出された。【児の成長と関わり】には、「呼吸器抜管・点滴抜去・コット移床・退院等児の成長を感じた時」や「児が退院後病棟に遊びに来てくれ成長を感じた時」などがあげられ、児の成長を目の当たりにすることで嬉しさや生きがいを感じていた。【親役割獲得過程への関わり】では「分娩準備が整っていなかった人や母児分離を余儀なくされた人への母親役割獲得過程に関わることができること」、「母親が児を受け入れる手助けができたこと」などがあげられ、感動や安堵感、充実感などを感じていた。「親との信頼関係」には、「受け持ち児の母親に頼りにされること」、「母親の本当の真意を聞くことができた時」、「母親と児の小さな成長と一緒に喜ぶことができること」などがあげられた。

【自分自身の成長・存在意義】は、【自分の看護への自信】、【自己成長】、【自分の看護がすぐに評価できること】、【自分の存在意義があると思えること】の 4 つのサブカテゴリーより抽出された。【自分の看護への自信】には、「NICU の業務が自信を持ってできていること」、「受け持ち看護師としての自信」などがあげられた。【自己成長】

には、「急性期のハイリスク児の看護や受け持ち児を継続して看護できるようになったこと」、「児の個性に合った看護が少しずつできるようになったり、指導面でも自信を持ってできるようになったりしたこと」、「児の成長を嬉しいと感じられるように自分が変化できたこと」等があげられた。[自分の看護がすぐに評価できること]には、「自分の看護が児の状態にストレートに表れ、評価・修正できること」等があげられた。[自分の存在意義があると思えること]には、「周りのスタッフから信頼を得られ、任されている満足感」、「自分の助言が母親に受け入れられる満足感」等が新たな意欲にもつながっていた。

【NICUという環境】は、[スタッフとの一体感]、[児が成長発達していく病棟で働くこと]の2つのサブカテゴリーより抽出された。[スタッフとの一体感]には、「みんなNICU全体を円滑に動かしているかんじがある」等があげられ、[児が成長発達していく病棟で働くこと]には、「成長発達していく病棟はここだけであり、未来のあるこの病棟（で働くこと）が好き」等があげられた。

やりがいに影響する要因としては、経験（受け持ち事例・ハイリスク事例との関わり、うまくいかなかった経験等）、精神的余裕、仕事への責任感、周囲の人（医師、病棟スタッフ、対象児の母親）からの指導や励まし・良い評価、コミュニケーションがとりやすい人間関係、ステップアップしようという意欲、ステップアップする楽しさ等があげられた。

NICU 経験年数別に見ると、【看護の対象との関わり】は1名を除き、経験年数に関係なく、あげられた。また、【自分自身の成長・存在価値】の中でも、経験年数が多い程[自分の看護への自信]があげられ、周りのスタッフからの信頼や児の状態から表れる良い評価をやりがいとしてあげていた。また、経験年数が浅い程、[自己成長]があげられた。

#### IV. 考察

##### 1. 看護師のやりがいに関する研究との比較

今回、NICU 看護師のやりがいを分析した結果、最も内容が多かったものは【看護の対象との関わり】であった。これは、看護師のやりがいとして、江原らの「患者との関わり」が1位で重要な因子となっている<sup>3)</sup>という結果や中村らの「(職場でやりがいを感じるのは)患者との関わり、患者からの評価を示すカテゴリーが全体に高い割合であった」<sup>4)</sup>という結果と同様であった。

また、【自分自身の成長・存在意義】は、中村らの研究で得られた「仕事の達成、患者以外の努力の承認、成長、仕事達成のプロセスなど」<sup>4)</sup>と同様の結果であった。

##### 2. NICU 看護師のやりがいの特徴

NICU 看護師のやりがいの特徴としては、【看護の対象との関わり】の中でも、児との関わりだけでなくその

両親への関わりをあげており、急性期を乗り越えた児が家族の一員として受け入れられ、児を含めた新たな家族形成をサポートすることにやりがいを感じていると考えられた。

NICU の対象は児とその家族である。児に対しては急性期という生命の危機的状況の中で児と関わった経験をし、その状況を乗り越えた児の成長を喜び、退院まで継続した関わりが持つことで、母親と同様に児に対する愛情も深まり、やりがいとなっていると考えられる。

親に対しては、急性期の児の状態を心配したり、児の成長の喜んだりと感情を共有することで得られる親との信頼関係がやりがいとなっている。また、NICU では母児分離状態であり、「母児分離を克服し母親になっていく感動や安堵感がある」や「母親になる準備ができていないところから普通の母親のようになっていく過程に関われる喜びがある」など〔親役割獲得過程への関わり〕に関するやりがいを持ち、母親に対する思いが強いと考えられた。「母親自身が入院中の病的な状態とは違い、回復しその人自身が見えてくる面白さや楽しさがある」という意見があり、母親を母親としてだけでなく一個人として捉えていた。「母親が本当は辛い思いをしているかもしれない、明るい笑顔の裏にある思いを知りたい」という母親への思いがあり、母親が児に対する否定的な思いを話したり、辛いと感情表出ができた時に「母親の真意が聞けたという喜び」になり、継続的に関わることで信頼関係が得られ、やりがいにつながっていた。

##### 3. やりがいに影響する要因 (図1)

知念らのNICUでの研究で「受け持ち看護師としての役割を果し、やりがい感につながった」<sup>5)</sup>という結果がある。今回の調査でも、「この子の事は自分が一番良くわかっている」「受け持ち児の母親に頼りにされた」等の受け持ち事例との関わりが、やりがいを持つための一つの要因になると考えられた。

NICU 看護師は新生児の生理に基づいたケア技術が必要であり、特に未熟性が著しく生命の危険に曝されている新生児の看護には自己の技術の習得度が患児の予後に直接影響する<sup>6)</sup>。このように責任は大きく、経験年数の浅い看護師にとってはストレスやバーンアウトする要因にもなる。しかし、今回の調査では仕事への責任感を「自分しかいない、自分がやらなくてははいけない」や「自分の看護が児の状態にストレートに表れ、評価・修正できる」とステップアップしようという意欲とし、自己の成長へとつなげ、小さな一つ一つの〔自己成長〕をやりがいとしていると考えられた。また、責任を個人が自分一人のものとして捉えても、周りのスタッフは医療チーム全体のものとして捉えて取り組む人間関係のよさが「スタッフみんなで取り組んでいる」という〔スタッフとの一体感〕をやりがいとしていたと考えられる。

今回の調査で、経験年数の浅い看護師は受け持ちとの関わりを通して、自己成長へとつなげ、それをやりがいとしていた。本人のステップアップしようという意欲に合わせ、受け持ちを積極的に持つことでやりがいを得られるのではないかと考えられた。また、ハイリスク児との関わりによって責任感の重さや失敗への恐怖心を持つが、それを克服できた時の達成感は大きく、やりがいをもちやすい。うまくいかなかった経験も一つのいい経験として成長していけるよう周りからのサポートや温かい励ましが重要であると考えられた。

### V. 結論

1. NICU 看護師は、看護の対象との関わり、特に親として成長していく過程に関われることにやりがいを感じていた。
2. NICU 看護師は、自分の看護への自信や自己成長、自分の看護がすぐに評価できること、自分の存在意義があると思えることをやりがいとして感じていた。
3. NICU 看護師は、周りのスタッフとの一体感や児が成長発達する病棟で働くことをやりがいと感じていた。
4. やりがいに影響する要因としては、経験（受け持ち事例・ハイリスク事例との関わり、うまくいかなかった経験等）、精神的余裕、仕事への責任感、周囲の人（医師、病棟スタッフ、対象児の母親）からの指導や励まし・良い評価、コミュニケーションがとりやすい人間関係、ステップアップしようという意欲、ステップアップする楽しさ等があげられた。

### VI. 本研究の限界

今回の調査は1施設、10名の調査であり、NICU 看護師全般に言えることではない。

#### 引用文献：

- 1) 武谷雄二ら編：助産学講座4基礎助産学4乳幼児の成長発達・新生児の管理, p79-80, 医学書院, 1997.
- 2) 野本真由美：集中治療室で働く看護婦の仕事継続に影響を及ぼす要因の分析, 第30回看護管理, p145-147, 1999.
- 3) 江原くるみ：当院看護婦の職務満足度とやりがいについての実態調査, 医療, 52, 630, 1998.
- 4) 中村あや子：看護婦の仕事意欲に関する研究, 第31回看護管理, p174-175, 2000.
- 5) 知念恵利子：新生児ICUにおける固定チームナーシング, 沖縄県立中部病院雑誌, 29(1), p15-18, 2003.
- 6) 武谷雄二ら編：助産学講座4基礎助産学4乳幼児の成長発達・新生児の管理, p78, 医学書院, 1997.

#### 参考文献：

- 1) 尾崎フサ子：看護における職務満足の要因, 看護, 55(3), p40-43, 2003.
- 2) 板倉祐子：1年目看護婦の仕事のやりがいに影響する要因, 神奈川県立看護教育大学校看護教育研究集録, p31-38, 2001.
- 3) 大西奈保子：ターミナルケアに携わる看護師のバーンアウトの様相, 臨床死生学, 8, p36-43, 2003.
- 4) 矢野薫：NICU 転入看護婦のストレス要因, 第32回看護管理, p246-248, 2001.
- 5) 市川恵子：やりがいを持って看護に取り組む看護師の育成を目指して, 神奈川県立看護教育大学校看護管理学科集録, p27-33, 2003.
- 6) 川村亨：病棟スタッフと向かい合い、「かい：甲斐」のある病棟を模索する, 神奈川県立看護教育大学校看護管理学科集録, p56-66, 2002.
- 7) 東口和代：病棟勤務看護職者の職業性ストレス反応と職場ストレス要因, 北陸公衛誌, 24(9), p55-60, 2002.

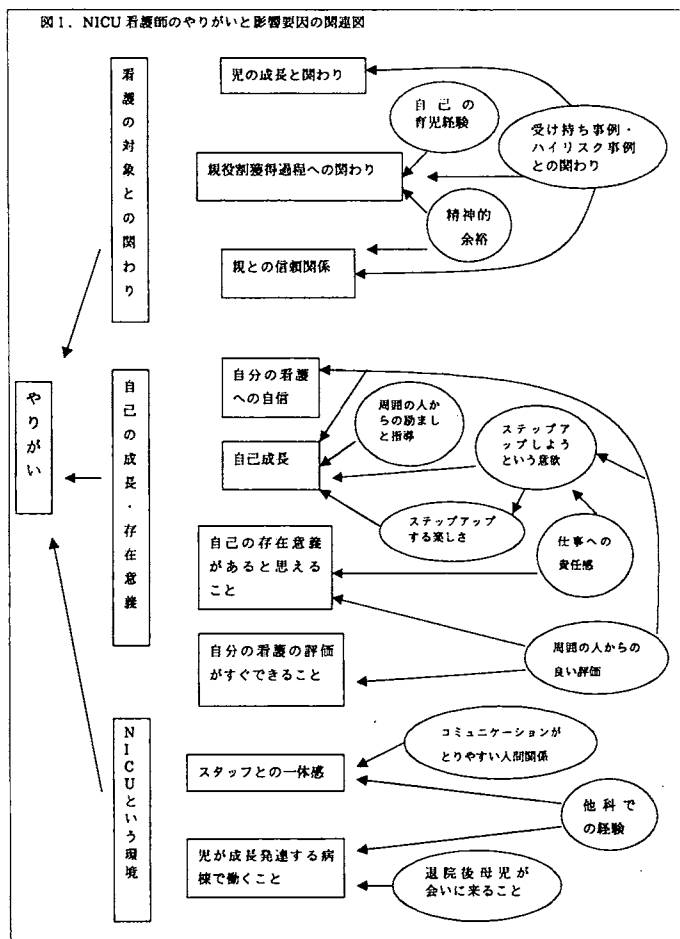


表1. NICU看護師のやりがいに関するカテゴリ

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
看護の対象との関わり	児の成長と関わり	児の成長や状態の良い変化を目の当たりにした時
		呼吸器抜管・点滴抜去・コット移床・退院等児の成長を感じた時
		点滴抜去・経口哺乳・体温管理・コット移床等のできるようになるのが嬉しい
		児が病棟に遊びに来てくれ成長している姿をみた時
		児がすくすく大きくなっていくので楽しい
		小さかったのに成長し歩き廻るようになった姿をみると嬉しい
		児が卒業を迎える時に満足感がある
		長期入院児の成長過程がみれ、退院していくのが嬉しい
		家族にとって大切な児の成長に一時でも援助の手を差しのべられることは生きがい
		NICUで小さく生まれた子が大きくなっていくのが嬉しい
		母子分離を克服し母親になっていく過程は感動と安堵感をもつ
		分娩準備が整っていない人の母親役割獲得過程に関わることができること
	最初はマイナスくらいだったのが普通の母親のようになっていく過程がみられること	
	母親の育児技術や精神・身体的状態が良くなったことに自分に関われること	
	母親が育児を修得し、児に愛着を持って接している姿をみれること	
	両親の育児技術の成長に関わられたこと	
	育児につまづいている母親が成長していき、それを援助するのが楽しい	
	母親に児を任せられる時期が母親が児を受け入れられ安心感がある	
	児に愛着を示したり児の成長を喜ぶ母親に関わること	
	自分が行った看護で児が家族に受け入れられる喜び	
	母親が児を受け入れる手助けができたこと	
	自分達が関わることで受け持ち両親が児を受け入れられた充実感	
	私たちが母性発達のきっかけになれること	
	母親が児の成長の変化に喜ぶのを見とうれしい	
	母親自身が入院中とは違いその人自身に戻り、その人自身が見えてくる楽しさ・おもしろさ	
	受け持ち児の母親に頼りにされること	
	長期入院で両親との信頼関係が築きやすいこと	
	外来受診の度に面会に来てくれ、それだけ母親との信頼関係ができたこと	
	退院後も児を見せにきてくれ、母親との信頼関係が築くことができたこと	
	母親の本当の真意が聞くことができた喜び	
	母親の本当の奥にある思いに気づくことができた	
	母親と児の小さな成長を一緒に喜ぶことができること	
	自分の成長・存在意義	自分の看護への自信
自分の技術が向上でき、自信・確信を持ったケアができていること		
自己の苦手意識を克服できた自信		
受け持ち看護師としての自信		
先輩からの承認から得られた自分もやればできるんだという自信		
自己成長		自分の看護の方向性が見え、次のステップにつながっていること
		急性期の児の看護や受け持ち児を継続して看護できるようになったこと
		児の状態を把握でき、観察力が養われ、時間的にも短縮して仕事ができるようになったこと
		今まで気づけなかったことに注意するようになったこと
		児の成長を嬉しいと感じられるように自分が変化できたこと
		児の個性に合った看護が少しずつできるようになったり、指導面でも自信を持ってできるようになったこと
		難しいことを苦勞してやる達成感があること
		受け持ち看護師として役割達成感が持てたこと
		周りのスタッフから信頼を得られ、任されている満足感
		自分の助言が母親に受け入れられる満足感
自分の存在意義があると思えること	自分が周りから必要とされ、頼りにされていること	
	自分にもできることがあり、そのことがわかったこと	
	自分の看護が児の全身状態としてフィードバックされ評価できること	
自分の看護がすぐ評価できること	自分の看護が児の状態にストレートに表れ、評価・修正できること	
	みんなNICU全体を円滑に動かしているかんじがある	
NICUという環境	スタッフとの一体感	
	スタッフがみんなで児を世話している感じがある	
	NICUではほとんどが最終的には上りつめて喜びで退院でき、達成感がある	
児が成長発達していく病棟で働くこと	成長発達していく病棟はここだけであり、未来のあるこの病棟が好き	
	児を含めた家族には将来があり、一緒に将来の事・今の事を考えることができる	